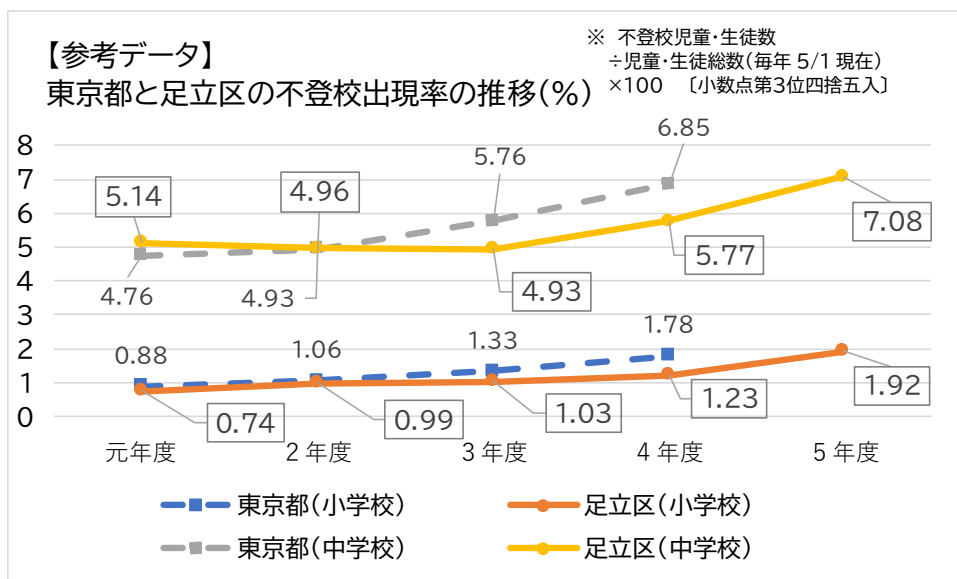


教 育 委 員 会 報 告

令和 6 年 6 月 1 1 日

件名	令和 5 年度の不登校児童・生徒数及び支援について																													
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課																													
内 容	毎月区が独自に実施している調査「長期欠席児童・生徒状況等に関する実態調査」に基づき、令和 5 年度の不登校児童・生徒数を報告する。																													
	1 令和 5 年度不登校児童・生徒数（累計 30 日以上欠席者）																													
	<table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>前年比（％）</th></tr><tr><td>小学校</td><td>234</td><td>312</td><td>318</td><td>371</td><td>572</td><td>+201 (+54.2%)</td></tr><tr><td>中学校</td><td>684</td><td>665</td><td>678</td><td>791</td><td>960</td><td>+169 (+21.4%)</td></tr><tr><td>合計</td><td>918</td><td>977</td><td>996</td><td>1,162</td><td>1,532</td><td>+370 (+31.8%)</td></tr></table>		元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	前年比（％）	小学校	234	312	318	371	572	+201 (+54.2%)	中学校	684	665	678	791	960	+169 (+21.4%)	合計	918	977	996	1,162	1,532	+370 (+31.8%)	
		元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	前年比（％）																							
	小学校	234	312	318	371	572	+201 (+54.2%)																							
中学校	684	665	678	791	960	+169 (+21.4%)																								
合計	918	977	996	1,162	1,532	+370 (+31.8%)																								
※小数点第二位四捨五入																														
(1) 直近 5 年間の推移																														
不登校児童・生徒数の推移 <table><thead><tr><th>年度</th><th>小学校</th><th>中学校</th><th>合計</th><th>前年比（％）</th></tr></thead><tbody><tr><td>元年度</td><td>234</td><td>684</td><td>918</td><td></td></tr><tr><td>2 年度</td><td>312</td><td>665</td><td>977</td><td></td></tr><tr><td>3 年度</td><td>318</td><td>678</td><td>996</td><td></td></tr><tr><td>4 年度</td><td>371</td><td>791</td><td>1,162</td><td>+21.4%</td></tr><tr><td>5 年度</td><td>572</td><td>960</td><td>1,532</td><td>+31.8%</td></tr></tbody></table>	年度	小学校	中学校	合計	前年比（％）	元年度	234	684	918		2 年度	312	665	977		3 年度	318	678	996		4 年度	371	791	1,162	+21.4%	5 年度	572	960	1,532	+31.8%
年度	小学校	中学校	合計	前年比（％）																										
元年度	234	684	918																											
2 年度	312	665	977																											
3 年度	318	678	996																											
4 年度	371	791	1,162	+21.4%																										
5 年度	572	960	1,532	+31.8%																										
令和 4 年度と比べ、令和 5 年度の不登校児童・生徒数は、小学校で 201 人（54.2％）増、中学校で 169 人（21.4％）増、全体で 370 人（31.8％）の増となった。特に小学校は過去 4 年と比べて非常に高い伸びとなった。																														



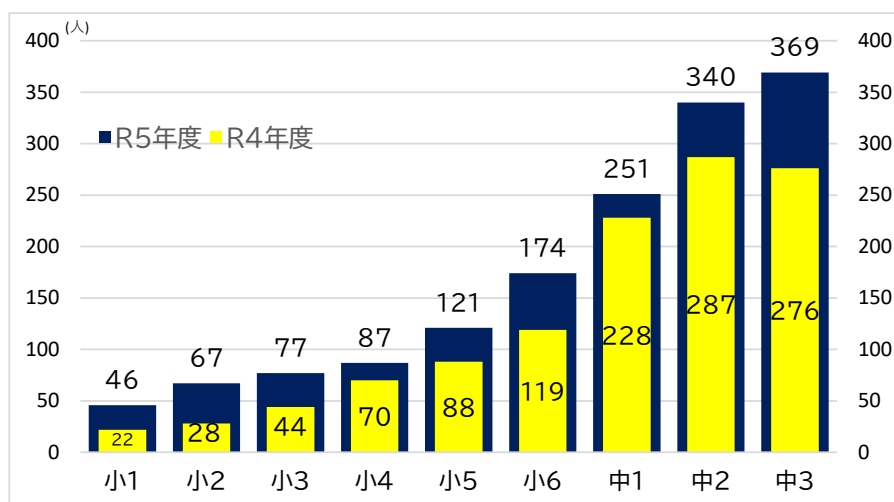
区の不登校出現率は、令和3年度以降上昇傾向にあるが、令和3、4年度は東京都平均を下回っている。

※令和5年度の東京都の不登校出現率は秋ごろ公表される予定

(2) 学年別不登校児童・生徒数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計
4年度	22	28	44	70	88	119	371	228	287	276	791
5年度	46	67	77	87	121	174	572	251	340	369	960
前年比	+24	+39	+33	+17	+33	+55	+201	+23	+53	+93	+169
増加率(%)	109	139	75	24	37	46	54	10	18	33	21

※小数点以下切り捨て



同一学年の増加率を比較すると、小学校低学年(1～3年生)が高く、不登校の低年齢化が見られた。単年度の傾向であるのか、次年度以降も注視する必要がある。

(3) 欠席日数別不登校児童・生徒の学年別人数内訳

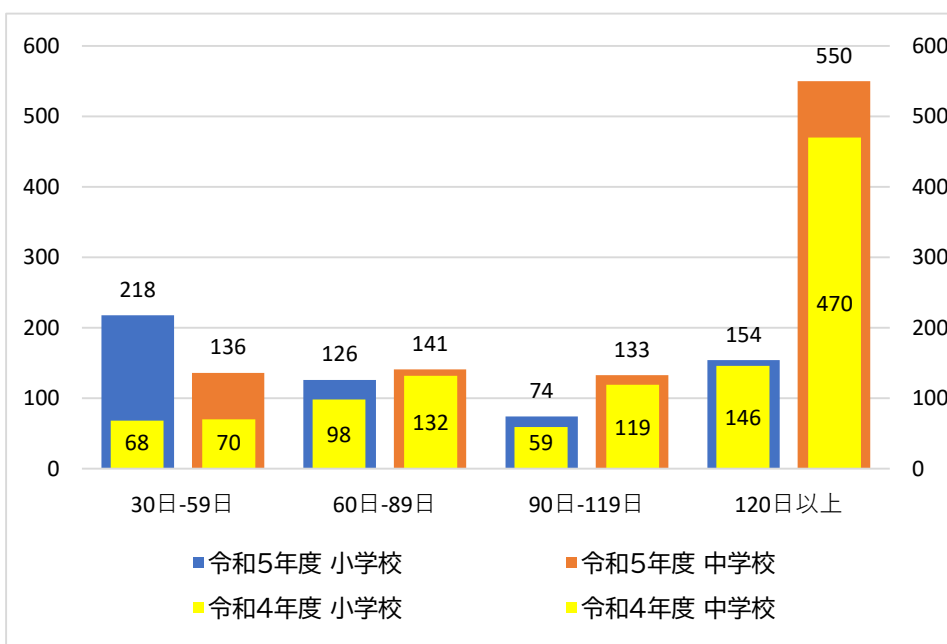
【令和5年度】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計
30日-59日	27	28	30	39	39	55	218	50	51	35	136
60日-89日	9	17	19	16	28	37	126	49	35	57	141
90日-119日	4	12	9	14	13	22	74	34	45	54	133
120日以上	6	10	19	18	41	60	154	118	209	223	550
合計	46	67	77	87	121	174	572	251	340	369	960

【参考】 ■は対令和4年度で2倍以上となっている区分

【参考：令和4年度】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計
30日-59日	6	9	13	9	13	18	68	32	21	17	70
60日-89日	14	9	11	17	18	29	98	46	43	43	132
90日-119日	2	4	5	13	18	17	59	37	45	37	119
120日以上	0	6	15	31	39	55	146	113	178	179	470
合計	22	28	44	70	88	119	371	228	287	276	791



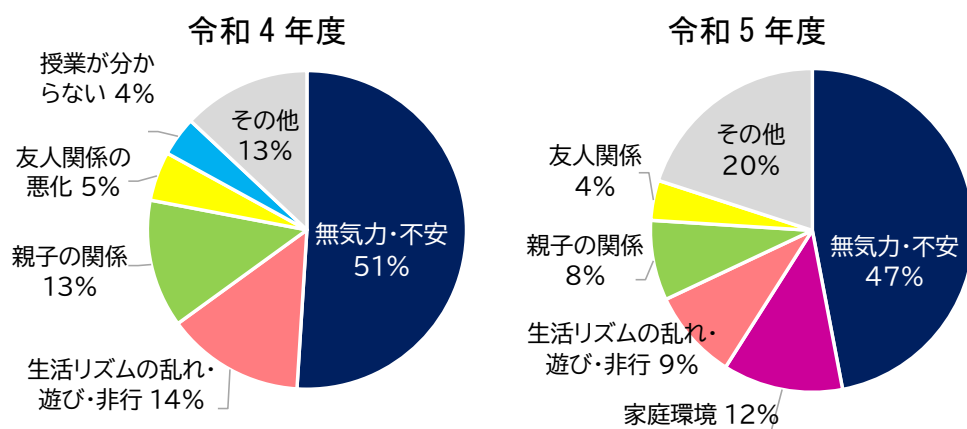
ア 30日から59日欠席の人数が、小・中学校共に増加しており、不登校人数全体の増につながっている。

イ 中学生のうち、120日以上欠席の人数が470人から550人と80人増加しており、不登校状態の長期化が伺える。

2 主な不登校の要因

「長期欠席児童・生徒状況等に関する実態調査」に基づき、令和5年度の不登校児童・生徒の小・中学校それぞれの要因について、上位5項目を比較する。 ※学校が把握している要因を入力

(1) 小学校 ※小数点以下四捨五入

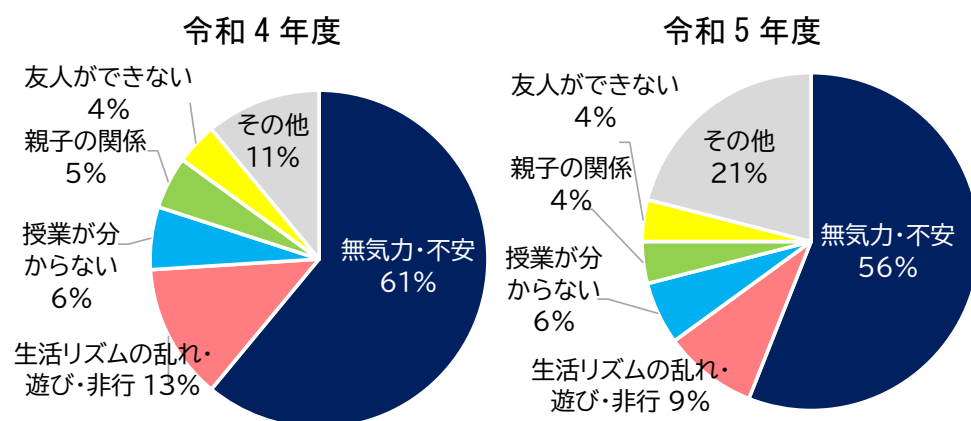


※「授業がわからない」が6番目以下、「家庭環境」が2番目になった。

【小学校での要因事例（聞き取り調査による）】

- ア 原因が明確でなく、休む期間が長くなり、不登校になっている事例
- イ 朝は起きられるが、学校に行く気力がなく、家で一日過ごす事例
- ウ 保護者の精神的不安定や、兄弟関係の不登校で一緒に引きこもるような事例

(2) 中学校 ※小数点以下四捨五入



※比率は異なるものの、令和4年度、5年度の順番は同じであった。

【中学校での要因事例（聞き取り調査による）】

- ア 人との関わりを拒む生徒が登校しない事例
- イ SNSやゲームなどが中心の生活になり、生活リズムが崩れてしまった事例
- ウ 学業不振で学校の進度についていけない事例

3 チャレンジ学級・あすテップの実施状況

※ 正式通級生のみ。()内は令和4年度実績

(1) チャレンジ学級（定員：西新井 70、綾瀬 30、竹の塚 20）

	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
西新井	0 (2)	3 (2)	1 (4)	5 (10)	23 (19)	28 (26)	60 (63)
綾瀬	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	10 (6)	7 (8)	20 (14)
竹の塚	0 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (7)	9 (7)	11 (12)	24 (28)
合計	0 (2)	6 (3)	2 (5)	8 (17)	42 (32)	46 (46)	104 (105)

(2) あすテップ（定員：なでしこ 20、はなほ 20）

	中 1	中 2	中 3	計
なでしこ (第十中内)	1 (0)	4 (4)	6 (10)	11 (14)
はなほ (花保中内)	1 (0)	3 (4)	4 (2)	8 (6)
合計	2 (0)	7 (8)	10 (12)	19 (20)

4 不登校児童・生徒への支援委託事業の実施状況

(1) NPOと連携した居場所を兼ねた学習支援事業

家庭や学校以外の「安心して過ごせる居場所」と「学習環境」を提供している。 ※（ ）内は令和4年度実績

ア 支援人数（定員：中部 20、西部 20、東部 20、北部 10）

	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
中部地区	0 (0)	0 (0)	2 (2)	4 (3)	7 (13)	13 (18)
西部地区	1 (0)	1 (3)	4 (5)	8 (9)	10 (6)	24 (23)
東部地区	1 (2)	2 (0)	3 (8)	9 (9)	6 (8)	21 (27)
北部地区	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (6)	6 (4)	8 (11)
合計	2 (2)	3 (3)	9 (16)	23 (27)	29 (31)	66 (79)

イ 支援結果（中学3年生は進路等）

	支援結果	人数	内容等
--	------	----	-----

小学5年生 ～ 中学2年生	居場所支援等 が定着	27名 (34)	学校復帰、チャレンジ学級に 通級又は居場所支援の継続
	継続通級困難	10名 (14)	教育相談、SSW等の個別支 援
中学3年生	高校進学	21名 (25)	チャレンジスクール、通信 制学校等
	その他	8名 (6)	就職、家事手伝い、専門学校 進学、区外転出等

(2) 家庭学習支援事業

長期不登校児童・生徒へのアウトリーチ支援として、スクールソーシャルワーカーや学校との連携のもと家庭への働きかけを行い、家庭への講師派遣による個別指導、ICTを活用した学習支援など多様な学習機会を提供している。令和5年度から対象を中学生にも拡大した。

※（ ）内は令和4年度実績

ア 支援対象

長期欠席状態（欠席日数120日程度）にあり、外出が困難な児童・生徒

イ 支援人数 小学生25人(26) 中学生21人(令和5年度開始)

小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計
0	1	2	6	8	8	25	10	10	1	21
(1)	(2)	(3)	(5)	(6)	(9)	(26)	(-)	(-)	(-)	(-)

ウ 支援結果

(ア) 講師派遣回数：延べ879回(513)

(イ) 主な改善状況：

チャレンジ学級に繋がった	1人(3)
フリースクールに繋がった	3人(2)
居場所を兼ねた学習支援等に繋がった	5人(0)
別室等に部分的に登校できた	10人(8)
教室復帰した	4人(4)

5 今後の方針

令和5年度の不登校の主な傾向は、①小学校低学年の増加率が高い、

	②中学生の不登校状態の長期化が伺える、③不登校の要因が昨年度に続き「無気力・不安」が小・中学校とも最多、等である。これらを踏まえ、令和6年度は以下に取り組む。 (1) 学校における登校支援の推進 ア 今後、計画的にスクールソーシャルワーカーの増員を図り、学校との連携を強化することで、小学校段階からの不登校の早期対応に努める。 イ 登校サポーターの人材確保を進め、お迎え支援による登校支援の強化や、スモール・ステップ・ルーム（SSR）や別室支援の充実を図り、不登校の未然防止に努める。 (2) 学校以外の教育機会の充実 ア 既存の事業（チャレンジ学級、あすテップ、居場所を兼ねた学習支援、家庭学習支援）を効果的に活用しながら、不登校児童・生徒の状況に応じた支援の充実を図る。 イ 外出が困難な生徒への支援として、NPO法人が実施する不登校生徒へのオンライン支援事業のモデル実施（中学生4名）を継続する。さらに、東京都のバーチャル・ラーニング・プラットフォームを活用したオンライン支援を令和6年度から活用し、学習の機会を増やしていく。 (3) 私立学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）や民間団体との連携 ア 東京みらい中学校との連携事業（チャレンジ学級等の指導員の授業見学や、区と東京みらい中学校のスクールソーシャルワーカー（SSW）同士の情報交換など）の実施により、区の不登校児童・生徒の支援に繋げていく。 イ 令和6年度新たに、区内にあるフリースクールに関する実態調査を行い、区や学校との連携の可能性の整理や、フリースクール同士が情報交換できる場の提供等を検討していく。 (4) 不登校の当事者へのアンケート ア 不登校の要因について、学校と児童・生徒・保護者の認識の差やその要因をさらに深く分析し対策を講じるため、年度内実施に向けて、区独自のアンケート調査の実施方法を検討中である。 イ 実施内容および時期については、学識経験者等の意見を参考にしながら決定し、改めて報告する。
--	---